

協議会だより

DHA・EPA協議会

〒151-0062

東京都渋谷区元代々木町 32-7

一般財団法人日本水産油脂協会内

TEL & FAX: 03-3469-6931

URL: <http://www.dhaepa.org/>E-mail: dha_epa@par.odn.ne.jp

富山大学名誉教授 浜崎 智仁

本年6月に動脈硬化学会から2012年度版のガイドライン(G2012)が出版された。最初のバージョンは1997年に出版されており、その後数年おきに改訂され、前回(G2007)初めて総コレステロールからLDL-コレステロールに目標が変更された。今回の改訂で、大きく変わったのは脂質代謝異常の分量が相対的に減り、動脈硬化の総括的記載となったことである。

ここでは、G2012の問題点を脂質代謝異常の記述を中心に列挙したいと思う。G2012を手にとつて、最初に利益相反情報を探したが無駄だった。やはり彼らは書けないのだ。大体、製薬会社からごっそりもらっている人たちが、薬に関するガイドラインを作るなど狂気の沙汰だ。9月にアエラが動脈硬化学会と脂質栄養学会のコレステロールに関する立場を比較し、あっさり脂質栄養学会に軍配を上げてしまった。記者(長谷川 熙氏)は動脈硬化学会側があまり勉強しておらず、しかも誠実でないことに嫌気がさしたのだと思う。高コレステロールが危険であることは「常識」のため、そんな基本など彼らは全く勉強していないのだ。

高コレステロールを治療する際、あるいは治療を受ける際、その値だとどの程度早く死ぬかを知りたいと思うはずだ。動脈硬化学会は、当初よりまだ十分なデータがないのでコレステロールと総死亡率の関係は出せないと言いつつしている。それから10年以上たったが、未だにコレステロールと総死亡率の関係はガイドラインに出てこない。私がガイドラインの責任者なら、そんなもの死んでも出せない。誰もが高コレステロールは治療するなどの結論に簡単に達してしまい、身の破滅だからだ。

G1997では総コレステロールで話をしていた。その後G2007ではLDL-コレステロールとなった。今回はNon-HDL-コレステロールという新しい指標が出てきた。批判が出るたびに矛先をかわすため、測定するものを変えたり増やしたりしている。これは単なる質の悪い冗談である。議論する必要もない。

今回のG2012では、最初の方にコレステロール、血圧、年齢、男女別で冠動脈疾患による今後10年での死亡率が分かるようなチャートがある。女性の方を見ると、コレステロールは冠動脈疾患死に全く影響がないことが分かる。それでもLDL-コレステロールが180 mg/dL(総コレステロールで260 mg/dL)を超えると治療域となる。これは矛盾している。男性の方も統計学的にとんでも考えられないような図がでていいる。大体高齢者になると、コレステロールはどの国でも完全に善玉であるのに、このチャートによると、高齢者ではコレステロールの目標値をさらに下げようという指導することになる。いろいろな調査で、血清脂質の値が高いと、脳卒中になりにくいことが分かっている。これはG2012がよりどころとしているNIPPON DATA80でも同じだが、そのチャートは出てこない。

上記はガイドラインの問題点の一部を記載したに過ぎない。DHA・EPAを十分摂取している日本人ではコレステロールは特に善玉だ。もうそろそろコレステロール仮説から卒業しよう。

《幹事会のうごき》 平成24年11月8日(木)15:00~17:00、一般財団法人日本水産油脂協会新館において平成24年度第7回幹事会が開催された。

- ・ 第14回公開講演会に関わる、出席者、会計等が事務局より報告された。
- ・ 本年度上半期収支決算について、事務局より説明があった。
- ・ 次年度事業計画について検討した。